



社会福祉法人
京都視覚障害者支援センター

2021 年度 事業報告

【法人理念】 希望に満ちた成長への喜び

【行動指針】 働く力、よりよい生活、あなたの能力や可能性に合った
自立に向けての支援を行ないます

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67
社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
TEL075-333-0171 FAX075-333-0172
Email: info@kyo-ssc.com

目 次

I	2021 年度 法人概要	1
	はじめに	1
	1. 障害者支援施設 洛西寮	1
	2. 三療事業	1
	3. 京都市の財政難の影響	2
	4. 法人設立 40 周年記念実行委員会	2
	5. 法人経営戦略会議から	2
	6. 最後に	3
II	各部門別報告	3
A.	障害者支援施設「洛西寮」	3
	支援計画（ステップアッププラン）	3
	1. 就労継続支援B型「らくさい作業所」	3
	2. 生活支援	5
	3. 施設入所支援（夜間支援）	6
	【各サービス内容】	7
	1. 健康管理	7
	2. 食生活と栄養管理	8
	3. 歩行訓練	9
	4. ボランティア支援サービス	10
B.	三療事業部	10
	1. 盲人ホーム 美鈴	10
	2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」	11
C.	法人	12
	1. 事務局	12
	2. 点字出版施設「紫野点字社」	15
	3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業	16
	4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」	17
	5. 主催行事	18
	6. 共催事業	18

I 2021年度 法人概要

はじめに

2021年度は新型コロナウイルスの変異株による感染拡大により緊急事態宣言、蔓延防止重点措置に加え、京都市の財政難の影響を受けた年となった。

このような状況の中、2年目を迎える洛西寮B型一体化と生活支援の基盤作りにさらに邁進し、職員、利用者ともに作業スキルの向上と、生活においては身辺自立の可能性を広げる支援の方向性が定まった。

また、2つの三療事業所においては、新型コロナウイルス感染対策を万全に、来院患者のニーズに応えられるように健闘できた年となったが同時に厳しい年でもあった。

1. 障害者支援施設 洛西寮

① 作業、生活、訓練の評価表の改善

職員の共通認識をさらに図るため、評価表の改善を行い、利用者のステップアッププランへ反映させたことにより、難しいと思われていた作業、生活に必要な身辺自立の可能性が広がった。

② 作業場のレイアウトの改善

職員、利用者の作業スキルが向上したことをさらに活かすために、物の配置の固定、動線の確保等、効率化と生産性の向上を測るために作業場のレイアウトを改善した。

③ 洛西寮内のICT機器活用のニーズへの対応

視覚障害は情報障害でもあり、情報を獲得する際に、PCやスマホの活用は欠かせない。これらの活用のニーズは高まっている。そして、一定のサポートがあれば、ICT機器を使用しての情報獲得が可能であることが確認できた。

※今後の課題として

情報を獲得し活用するための、ICT機器活用の訓練をプログラム化し、これと同時に、歩行訓練の取り組みもさらに促進し、2つの訓練を実施することにより、利用者の日常生活の充実を測る。

2. 三療事業

2021年度も新型コロナウイルスの変異株により、美鈴、らくさい治療院ともに、不特定多数の患者の来院による感染拡大の懸念があったが、幸い大きな影響はなかった。実績においては、美鈴は利用者の施術スキル向上の試みの結果、年度末の3月に前年を超えることができた。

らくさい治療院は、患者数、売上ともに前年を超える結果となり、加えて、2019年の患者数に近づき、売上げは超える結果となった。

3. 京都市の財政難の影響

① 美鈴の補助金見直しによる就労継続支援 B 型への移行

京都市の財政難により、補助金全体の見直しがあり、盲人ホームに対する補助金年間約 800 万円の交付も難しくなるということで京都市と協議した。結果、2022 年 10 月 1 日から美鈴は就労継続支援 B 型に移行し、らくさい治療院の A 型と一つとなり、三療事業は AB 多機能型となる。

② 点字版市民新聞の優先調達法による随意契約化

京都市の財政難により、点字版市民新聞が競争入札になる予定であったが、障害者優先調達推進法を根拠に京都市へ随意契約の交渉を行い、2022 年度から点字版市民新聞が随意契約となった。

4. 法人設立 40 周年記念実行委員会

「見えなくてもできる」をテーマに動画を製作し、YouTube で配信することにより法人事業の啓発広報活動を実施した。加えて、京都府内の障害者地域生活支援センター、地域包括支援センター、障害者就業・生活支援センター、社会福祉協議会（約 400 施設）に 40 周年記念のチラシを配布し、法人のホームページ、YouTube の閲覧につながるよう試みた。

5. 法人経営戦略会議から

ICT 機器活用相談事業

目的

多くの中途失明者をはじめとする視覚に障害のある方は、ICT 機器を活用する初期の段階で見えないことにより、情報の獲得と活用において、圧倒的に不利な状態に置かれている。

そこで ICT 機器活用サポートを行うことにより、視覚に障害がある方の情報ギャップをなくし、コミュニケーションを円滑にし、快適な生活と自己実現の可能性を広げることを目指す。

将来像

既に ICT に関するサポートを京都府の委託事業である巡回相談で実施しているが、現在の補助金では人員が確保できず、ICT に関するサポートにも限界がある。そこで、近い将来の中途失明者をはじめとする視覚障害者の情報ギャップを埋めるためのサポートとして、まずは、京都府に協力の依頼をする。

次に、将来的には情報デバイドを解消する国の施策を予測し、巡回相談事業で ICT に関するサポートの実績を上げデータ化し、それを一つの根拠として、即座に事業化し動ける状態を作っておく。

さらに、ICT 機器活用サポートを国の制度に乗せて個別給付とし、福祉サービスとして位置づけることができれば、多くの当事者の情報デバイドは解消され、視覚障害者にとって一般的に広く活用できる状況が望ましく、この実現には各関係団体との連携と協力体制が必要であり、調整、話し合いのはじめの年度とする。

6. 最後に

2021年度も新型コロナウイルス感染症の状況は変わらず、施設運営においては緊張した日々が続いた。

特に、2020年度から丸2年、行事はほとんど開催できず、利用者、職員ともに我慢の年となった。

2022年度は不透明ではあるが、洛西寮に新たに5名の職員が入職した。うち2名が視覚リハビリテーションに精通する者である。そして、視覚リハビリテーションに精通する職員が洛西寮の施設長に就任し、2019年度末にビジョン検討委員会で掲げた、ICT、歩行等の訓練の形が実現する可能性が高まった。

法人事業が少しずつ変わろうとしている今、より具現化することに邁進し、基本理念の「希望に満ちた成長への喜び」を実感できるよう、利用者、職員の豊かな人生につながるよう役割を果たしていく。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」

支援計画（ステップアッププラン）

【概要】

個別の能力・可能性に着目し、アセスメントを深め利用者のニーズを十分に把握した上で、当法人の理念及び行動指針に基づき、できるだけ具体的な支援計画を作成した。「ステップアッププラン」という名称にしてから2年目で、生活面及び作業面の評価表を、より個々の達成度が正しく段階的に把握しやすいように改訂した。評価表の段階的到達度の設定を用いてステップアップしていく支援計画を作ることで、利用者のモチベーションを上げ、法人理念である「希望に満ちた成長への喜び」につながる支援となるよう努めた。

1. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

【概要】

作業の効率化・スキルアップを目的とした職員の配置換えを行い、一体化2年目がスタートした。昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響は否めず、なかなか例年通りとはいかなかったが、可能性を伸ばすことに着目した支援を行い、利用者のスキルアップ・モチベーションの維持に努めた。

作業量は昨年度ほどの大きな落ち込みはなく、秋の繁忙期にはいくつかの納期が重なることもあったが、利用者のスキルアップ・職員間の連携により滞ることなく乗り越えることができた。夏頃に京都府に納めた黒豆茶の反響が少なからず今も続いており、また、新規の保育園2か所とつながりができたことである程度の売上を維持することができた。

この2年間を踏まえ、来年度はさらなるステップアップの年にしていきたい。

【成果】

- ① 可能性に着目した支援
- ② 利用者のスキルアップ・意識の変化
- ③ 効率・スキルアップを目的とした職員の配置換え
- ④ 職員間の連携強化
- ⑤ 評価表の見直し
- ⑥ 新規保育園とのつながり（2か所）、製品販売の実施
- ⑦ 黒豆茶の京都府からの大量発注による宣伝効果
- ⑧ 通所利用に向けた盲学校生の受け入れ
- ⑨ B型事業所の基盤の強化

【課題】

- ① 作業環境の改善
- ② 点字データ作成班の強化
- ③ 支援スキルの向上・方向性の統一
- ④ 作業支援・生活支援の両立、プログラム化
- ⑤ 職員の育成

【実績】

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、京都市部局情報誌、盲導犬協会情報誌
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター
ミシン縫製	下請：和装用袋、ヒモ通し、袋物、カバンの込み入れ作業等 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋・マスク等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上（円）
点字	9,718,679
自主製品	538,230
縫製下請	353,885
箱作業	424,600

数珠加工	35,800
黒豆茶	1,381,420
自販機	270,716
その他	26,480
合計	12,749,810

③ 工賃

年度	総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 (一人あたり) ②÷③	平均工賃時間 ②÷①
2020	456 月	32,477 時間	8,128,054 円	17,825 円	250.3 円
2021	431 月	33,697 時間	9,422,109 円	21,861 円	280 円

2. 生活支援

【概要】

前年度より就労継続支援 B 型一体化に伴い、効率の良い作業支援を行うために、急病や作業時間中のアクシデント、必要度の高い生活支援を優先的に対応する、生活支援員(作業支援を行いながらも生活支援を主にする支援員、看護師・栄養士を含む)を配置した。

必要に応じた個別の生活の支援を行い、一斉の居室の支援や利用者の運動、レクリエーションによるストレス解消なども企画した。

【成果】

- ① 作業と連携した生活支援(連携が密になった)
- ② 利用者の生活力アップのためのアプローチ(ADL 訓練とモチベーションを上げる)
- ③ IT 機器活用のための支援と訓練(簡単なレクチャー、繰り返し、チェック)
- ④ 歩行訓練により高まった新規入所者の館内移動の安全度・自由度
- ⑤ 居室支援により衛生環境の維持改善
- ⑥ ADL 維持のための必要性と段階的到達度がわかりやすい評価表の作成
- ⑦ 身体の機能的な問題や体力の衰えにより、入浴などの日常生活上で安全確保のための介助が必要な利用者に対して、必要な介助支援
- ⑧ すべての利用者に対して、必要な買い物や手続きの支援

【課題】

- ① コロナ禍における運動不足解消の企画(筋力低下、運動機能低下、ストレス解消)
- ② カラオケ・音楽・ヨガなどのレクリエーションによる心身のリフレッシュ企画
- ③ 歩行訓練、点字学習、ICT 機器習得などのニーズに合わせた学習機会の提供
- ④ 介護度の高い利用者へのサポートの労力確保と効率性

- ⑤ 作業のさらなる理解とスキルアップ
- ⑥ 作業支援と生活支援の報告・連絡・相談(前年より改善)
- ⑦ 支援計画に基づいた支援

【実績】

プログラム	内容
買い物支援	近隣の商店や桂川イオンへの買い物同行や計画の支援
シーツ交換	必要な利用者に対して、寝具を整え、衛生管理支援
一斉居室支援	居室の衛生保持のための清掃支援と整理整頓の支援

3. 施設入所支援（夜間支援）

【概要】

年度当初 25 名の入所利用者からスタートとなった。(定員より 5 名減)

施設利用者の動向では、新規入所利用者が 3 名、退所利用者は 2 名で期末の利用者は 26 名となった。

昨年同様、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、利用者の定員確保に向けての取り組みについては積極的な広報活動までには至らなかったが、行政や学校関係等からの問い合わせは多数あった。

入所利用者の重複する障害が多様化していることで、利用者対応も複雑化している。対応するために、支援員間の連携はもちろん、夜勤者・日直者との情報共有を深める意見交換も定期的に行った。

【成果】

- ① 利用者確保に向けての取り組み
 - ・ 市内福祉事務所や学校関係者からの問い合わせ
→特に関東在住の盲学校生とその家族が春休みを利用して見学にきたことは特筆することである（学校の先生に勧められたとのこと）。
 - ・ 入所利用体験や見学の実施
→今年度、入所体験した 2 人はいずれも入所につながっている。
- ② 新型コロナウイルス感染症予防の徹底
 - ・ 感染拡大防止対策についての職員への周知
- ③ 夜勤者、日直者との業務内容について話し合いを行い、周知徹底と利用者個々の情報の共有化
- ④ 緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持
- ⑤ 休日緊急対応時における施設長・主任・看護師の連絡体制整備及び情報共有、連携の強化

【課題】

- ① 入所利用者の定員確保への取り組み
- ② 達成可能なステップアッププランの作成(さらなる改訂)
- ③ 職員間の連携および情報共有の強化
- ④ 休日・夜間支援における安全・安心な生活環境整備、転倒防止など危機管理対策における夜勤・日直職員との職務の確認

【各サービス内容】

1. 健康管理

【概要】

- ① 新型コロナウイルス感染症対策の情報共有と実施。最新情報の取得とマニュアルの更新。
- ② 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践。
- ③ 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援。

【成果】

- ① 新型コロナウイルス対策の徹底を継続しながら、行政からの指示変更等について迅速に対応した。また隔離室を整備し、初動対応を含めた実際の動きのデモンストレーションを行い、職員全体で感染対策強化に努めた。感染拡大予防策としては、抗原検査キットの活用や施設内での新型コロナワクチン集団接種が円滑に進むよう取り組んだ。現在の所、罹患者なく経過している。
- ② 生活支援の取り組みが二年目となり、生活の中で継続できそうな運動の定着化を目指したり、薬剤の自己管理の練習、健康相談など、より個々の理解を深めながら支援を行うことができた。
- ③ 若年層の利用者にも継続してがん検診の必要性を伝えてきた。興味を示された方や実際にがん検診を初めて受けた方など、少しずつ健康に対する意識が向上してきた。

【課題】

- ① 健康維持に向けた利用者の自発的行動と定着化
- ② 体力維持と身体機能減退防止、リフレッシュを目的とした全体での定期的な運動等の取り組み
- ③ 各種検診の必要性周知と受診促進

【実績】

① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(7・3月は全員)	138	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	418	洛西寮看護師	洛西寮医務室

5月	歯科健診	希望者	9	京都府歯科医師会	洛西寮
6月	胃癌検診	50才以上（2年に1回）	2	京都予防医学センター	洛西支所
6月	基本健診	全員	34	鳥羽健診クリニック	洛西寮
6月・11月	大腸癌検診	40才以上	9	京都予防医学センター	洛西支所
7月	耳鼻科健診	希望者	20	医療機関	豊田医院
11月	子宮癌検診	20才以上女性 （2年に1回）	1	医療機関	洛西ニュータウン病院
12月	乳癌検診	40才以上女性 （2年に1回）	2	京都予防医学センター	洛西支所
中止	眼科健診				

② 通院件数

年度	通院件数
2016年度	483（うち介助 375）
2017年度	488（うち介助 335）
2018年度	434（うち介助 342）
2019年度	416（うち介助 348）
2020年度	260（うち介助 210）
2021年度	285（うち介助 224）

2. 食生活と栄養管理

【概要】

利用者の栄養状態の維持や改善、食生活の質の向上を図るため、栄養ケア・マネジメント会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性に配慮した支援とその検討を行った。献立や調理方法を工夫するとともに、給食委員会を開催し給食業者と情報共有と調整を計った。

【成果】

- ① 食中毒や新型コロナウイルス感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた。
- ② HACCP（衛生管理の国際的な手法）感染症対策マニュアル、殺菌基準等の周知徹底を図った。
- ③ 発熱（隔離）時の食事提供と、 Disposable食器への切り替えについて手順書の徹底。
- ④ 食堂のテーブルにパーテーションを設置し、飛沫感染予防に努めた。
- ⑤ 適温での食事提供を目指し、盛り付けおよび配膳順序の再検討を行った。
- ⑥ 誕生月のリクエストメニューや、鍋料理、ティータイムは手作り菓子を中心とし、好評を得ることができた。
- ⑦ 医師の指示に従った療養食の提供と、健診結果に基づく栄養指導を実施した。

【実績】

栄養ケア・マネジメントでは、利用者の健康の保持・増進のために最適な栄養ケアを提供する事を目標として定期的にスクリーニングを行い、食事摂取量や食事以外の飲食状況（外食、嗜好品（アルコール含む））、健康状態を把握し、いつまでも健康で働き続けられるよう、多職種（支援員、看護師、管理栄養士）で連携した。

【課題】

- ① 視覚障害者が満足を得られる献立、季節感を感じられる食事提供の追求。
- ② コロナ禍、外出自粛につき、菓子や飲料の摂取がストレス解消となっている例がある。体重量の増加、検査値上昇が懸念される。

3. 歩行訓練

【概要】

利用者個々のニーズ・歩行技術に合わせ視覚障害者の歩行に関する訓練を実施した。

【内容】

- ① 新しい利用者等に対する施設館内でのファミリアリゼーション（環境理解）
- ② 通所利用者に対する単独通所のための歩行訓練
- ③ 入所利用者に対する単独歩行で帰省するための歩行訓練
- ④ 利用者に対する白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ⑤ 利用者に対する寮周辺店舗や歯科までのファミリアリゼーション（環境理解）
- ⑥ 利用者に対するQOL向上を実現する社会参加のための歩行訓練
- ⑦ 利用者に対する店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

【成果】

- ① 新しい利用者等に対して洛西寮館内のオリエンテーションを行い、施設利用をスムーズにしている。
- ② 洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、日常生活の自立を支援している。

【課題】

- ① 白杖での単独歩行を一から身に付けたいという方のニーズに十分対応できていない。
- ② コロナ禍で公共交通機関を利用するような外出を想定した訓練にあまり時間を割くことができなかった。

4. ボランティア支援サービス

【概要】

総勢 33 名の登録者があったが、コロナの影響で、行事などの中止、外出禁止のため、朗読ボランティア以外は、活動していただく機会がなかった。

【成果】

朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「こんな話あんな話」、緊急事態宣言が解除された期間には、土曜日に対面朗読を実施していただいた。視聴覚室が密にならないように時間差で入室し活動していただき情報提供できた。

【課題】

コロナ禍の状況が落ち着き、以前のように行事などが行われた時にどれだけのボランティアが活動していただけるか。また、新しいボランティアの確保できるかが懸念される。

【実績】

- ① ボランティア登録者数 33 名
- ② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	0
朗読	279
選択科目	0
手引き	0
行事	0
合計	279

B. 三療事業部

1. 盲人ホーム 美鈴

【概要】

- ① 2021 年度利用者動向は、新規利用者 2 名（女性 1 名・男性 1 名）修了利用者 1 名であり、女性 2 名、男性 4 名、合計 6 名体制であった。
- ② 新型コロナウイルス感染症などの影響により患者数が減少し、予定していた行事、イベントなど中止し新型コロナウイルスの感染予防に努めた。

【成果】

- ① 患者数の推移
 - ・ 患者数 3,815 名 (前年比 99%)
 - ・ 鍼の患者数は 282 名 前年度比 58% 総患者数に対し 7%

- ・「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」延べ利用人数 249 名
- ② 利用者の技術向上のための取り組み
 - ・利用者間や指導員による施術スキルチェックをしてスキルアップに努めた。
 - ・施術した患者の施術報告を作成して、利用者と指導員で施術方法や手技などを話し合い学習した。
- ③ 船岡スタンダード「FUNAOKASTANDARD 交流会 2021」ZOOM 参加
- ④ 利用者 1 名、鍼灸整骨院「あんじゅ」高齢者施設訪問 就職
- ⑤ 京都府立盲学校より 2 名施設見学

【課題】

- ① 支援計画の活用による利用者の就労移行、開業への支援
- ② モニタリング活用による利用者の自己分析自己管理の促進
- ③ 職業生活を維持していくために必要な条件、習慣の向上支援
- ④ 利用者健康維持のため、健康管理支援の強化に努める
- ⑤ 「就労継続支援 B 型事業所」としての体制を整える

【実績】

- ① 年間患者数＝3,815 名（前年比 99%）、月平均 318 名
- ② 年間売上＝12,939,900 円（前年比 99%）

2. 就労継続支援 A 型「らくさい治療院」

【概要】

2021 年度もコロナ禍の状況は続いたが、患者数・売上ともに前年を上回る結果となった。ただ、2019 年度にはあと少し届かなかったが、健闘できた年となった。これは、患者数・売上・個別月別指名数の上昇と、最賃額の減少が示すように、治療院スタッフのスキルの底上げがある一定できたと実感している。

【成果】

- ① コロナ禍の状況は続いたが、患者数・売上ともに、前年の 105%
- ② 「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」延べ利用人数 334 名
- ③ 利用者個別月別指名数 10 人中 6 人上昇
- ④ 実績において、ベテランと若手の世代交代が始まった
- ⑤ スタッフの施術に関する掘り起こし及び掘り下げる作業の習慣化ができた

【課題】

- ① スタッフの受付業務のスキルアップ
- ② スタッフの施術中の対応力アップ
- ③ スタッフ同士の情報共有
- ④ スタッフの施術時間管理

【実績】

① 年間患者数＝6,300名（前年比105%）月平均525名

② 年間売上＝21,582,700円（前年比105%）

③ 平均賃金

年度	総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 (一人あたり)②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
2020	124月	16,539時間	19,079,802円	153,869円	1,154円
2021	120月	16,063時間	19,432,458円	161,937円	1,210円

④ 年度別月平均個別指名数の推移（%）

年度	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
2020	64.6	61.8	61.7	44.2	39.3	37.3	30	25.3	11.5	7.7
2021	68.3	57.5	68.1	41.8	42.8	41.6	32.1	24.8	11.6	13.3

C. 法人

1. 事務局

【成果】

① 法人運営

・経営戦略会議の設置運営

月	日	主な内容	出席者数
4	28	就労A型報酬改定対策・法人40周年広報・会議年間計画	6名
6	16	2020年度事業報告及び決算報告・会議年間計画	6名
7	6	新事業立案に向けての中途失明者のニーズ分析	6名
9	1	新事業提案プレゼンテーション	6名
9	28	3つの新事業案（ICT活用・相談事業・グループホーム）会議報告	8名
10	13	（※盲人ホーム美鈴補助金見直し説明会＝京都市担当者来所）	理事8名・監事2名・ 評議員6名・職員4名
10	27	盲人ホーム美鈴の就労継続支援B型シミュレーション・新事業	8名
11	24	盲人ホーム美鈴事業移行の確認・3つの新事業案の精査	8名
12	22	市民新聞点字版業務委託検証・三療事業多機能型・新事業（ICT）	7名
1	26	市民新聞点字版随意契約要望報告・府へのICT事業相談報告	8名
2	24	2022年度事業計画と予算、市民新聞優先調達法による契約	7名
3	23	ICT機器活用サポート相談事業、洛西寮広報活動、美鈴B型	8名

- ・ホームページによる情報発信（YouTubeによる広報活動）
- ・京都市の財政逼迫による2022年度からの補助金見直しで、「盲人ホーム美鈴」運営補助金も対象となった。その補助金減額について京都市と協議し、来年10月から就労継続支援B型への移行を条件に、2022年度は前半期の補助金約400万円（年間約800万円の半期分）を満額獲得。
- ・「市民しんぶん点字版製作・発送業務委託」を、一般公開入札から、障害者優先調達推進法に則る随意契約に変更。これにより、他の点字印刷業務も優先して受注が入ることとなる。

② 行政関係

- ・京都市指導監査（法人）10月26日
 指摘事項 → 「予算とその執行に軽微な範囲とは言えない乖離がある場合は、補正予算を編成すること」
 改善状況 → 巡回生活指導員派遣事業用の訪問相談自動車購入資金（約125万円：内京都府補助金100万円）で補正予算を編成。（2022年3月9日 理事会承認）
- ・運営補助金
 盲人ホーム事業補助金（8,124,985円）
 民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備借入金元本償還）（84,000円）

③ 助成金等関係

- ・特定就職困難者雇用開発助成金（800,000円）
- ・障害者雇用納付金制度報奨金（4,452,000円）

④ 機関誌「楽西（らくさい）」の発行

年2回（8月と1月）発行。1月号では、法人40周年記念号とし、8頁～12頁へと増ページし保存版とした。

【課題】

- ① 盲人ホーム美鈴の就労継続支援B型移行に向けての申請手続き
- ② 洛西寮利用者獲得による経営の安定化
- ③ ICT機器活用相談事業の具体化と事業財源の確保
- ④ 洛西寮施設長交代・美鈴の事業移行に伴う、法人事業新体制の確立
- ⑤ 建築基準法定期検査における建物の是正箇所の修繕

【実績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 就労継続支援B型（40名）	2011年10月1日 2013年4月1日	40名

点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	1982年4月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	1977年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	1982年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	2013年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	2014年3月1日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	26	2020年度事業報告並びに決算案について	理事8名 監事2名
6	16	理事長・常務理事の選定について	理事8名 監事2名
9	8	育児短時間勤務の改定について	理事8名 監事2名
12	8	盲人ホーム美鈴の就労継続支援B型事業への移行について	理事7名 監事2名
3	9	2022年度事業計画(案)及び予算(案)について	理事8名 監事2名

・評議員選定委員会

月	日	主な内容	出席者数
6	12	評議員の選任について	評議員選定委員3名

・評議員会

月	日	主な内容	出席者数
6	12	2020年度事業報告並びに決算案について 次期役員選任	評議員7名

・監査会

月	日	主な内容	出席者数
5	19	2020年度事業報告並びに決算案について	理事2名 監事2名

③ 法人登記事項

理事長・資産の変更登記（2021年6月24日）

2. 点字出版施設「紫野点字社」

【概要】

京都市の広報物や会議資料等を中心に受注した。「市民しんぶん・市会だより」点字版は年間契約であり、就労継続支援B型と連携し業務の履行を行なった。

京都市以外では、全国盲導犬施設連合会や社会福祉協議会、視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

前年度はコロナ禍の中でイベント等が少なく、過去最低の印刷実績であったが、今年度は製版で103%、塩ビ版印刷で103%と戻ってきている。ただ、2019年度と比べるとまだ85%である。

【成果】

- ① 京都市の広報紙だけでなく、会議資料等の点字版を作成した。
- ② 視覚障害者団体やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
- ③ 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
- ③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。

【課題】

- ① 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
- ② 少部数資料等への迅速な対応
- ③ らくさい作業所の点字印刷能力と受注への調整
- ④ 後継者の育成

【実績】

	実績（枚）	前年比実績（%）
製版	5,187	107%
塩ビ版印刷	356,569	103%
パソコン製版	1,137	125%
パソコン印刷	10,753	107%
点字名刺、はがき	1,770	84%
点字シール	6,341	118%
発送	1,736	101%
墨字印刷	31,677	96%
墨字入力	2	33%

3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業

【概要】

- ① 本年度も、南丹、乙訓、山城北、山城南の医療圏域の相談活動を展開した。また、関係機関との連携にも力を入れ、利用者発掘と視覚障害啓発へと繋げた。
- ② 相談者の多くは高齢者であり、コロナ禍が続く中、特に単身で地域とつながりの薄い方は、地域社会との疎遠の心配が高まるため、地域の介護施設などの関係機関と連携し、孤立した視覚障害者をなくす活動を行った。

【成果】

- ① 補装具・日常生活用具・機器の紹介、活用方法についての支援。
- ② 日常生活、人間関係の不安等への傾聴と心理更生。
- ③ 社会参加促進と生きがいの創出。当事者同士の交流、情報交換できる場の提供。
- ④ 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政、関係機関への橋渡し。
- ⑤ 介護保険利用者に対する制度利用の支援など、介護事業所との橋渡し。
- ⑥ 障害受容相談支援と生活訓練への橋渡し。
- ⑦ 一般就労・福祉的就労に伴う、関係機関との連携、心理的支援、環境調整。
- ⑧ IT 機器の相談、紹介、関係機関への橋渡し。
- ⑨ 障害年金請求申請手続きの説明、生活保護申請など、経済的問題解決に対する情報提供と支援。

【課題】

- ① 各関係機関との継続的な連携から新規相談者が掘りこされていくことと、以前からの相談者の継続的相談により、相談件数の増加、ケースの深刻化。マンパワー不足解消のためのスキルアップ。
- ② 視覚障害者の情報ギャップをなくすための情報収集や IT 機器の紹介スキルの向上。
- ③ 市町村窓口に対する本事業の更なる周知と、連携・広報などの協力支援体制の構築。
- ④ 担当者の他の兼務業務との調整。

【実績】

- ① 過去 5 年間の相談延べ件数比較

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
969	947	1186	1207	1251

- ② 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
11 月 22 日	長岡京市	長岡京市産業文化会館	10 : 30 ~ 15 : 30
12 月 20 日	亀岡市	亀岡市役所	10 : 30 ~ 15 : 30

4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

【概要】

- ① 計画相談の障害者福祉サービスの支給決定がスムーズに行われるようにコーディネートした。
- ② 洛西寮利用者へピアカウンセリングを実施した。

【成果】

- ① アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議を概ね滞ることなく開催した。
- ② 同じ法人内の強みから、洛西寮、らくさい治療院の事業所間で連携し、新規契約者の計画相談業務を行うことができた。
- ③ ピアカウンセリングを全員対象で順番にカウンセリングを行いつつ、順番以外の希望者も調整して実施できた。

【課題】

- ① 特に京都市西京区を越えた計画相談を受けた場合、その地域の社会福祉資源や独自制度等の把握、事業所の調整や移動面の問題。
- ② 担当者の他の兼務業務との調整。

【実績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	1	3
5月	1	2
6月	7	3
7月	2	3
8月	1	2
9月	2	7
10月	2	2
11月	2	2
12月	1	7
1月	1	5
2月	0	2
3月	4	3
合計	24名	41名

・カウンセリング・・・87名（延べ人数）

5. 主催行事

A. 洛西寮まつり

【概要】

毎年多くの方に来場いただき賑わう「洛西寮まつり」であるが、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止とした。

6. 共催事業

A. 第54回白杖安全デー（京都市内）

【概要】

配信期間：2022年3月14日（月）～4月17日（日）

企画内容：YouTube に視覚障害者の外出の不便、特にコロナ禍における視覚障害者の思いを届けるための映像をアップロードして、広く社会に啓発する。

【成果】

例年、人が集まる駅や繁華街などでシュプレヒコールなどの啓発活動をおこなってきたが、昨年よりコロナ禍で、2年連続で活動内容がインターネットでの動画配信による啓発になっている。広く市民に啓発ができています。

B. 第47回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概要】

- ・全体会議…6回開催（京都ライトハウス）
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「あい・らぶ・ふえあ」のイベントは中止。
- ・飲食店等で視覚障害者のサポートに活用していただけるラミネートチラシの作成し配布
- ・チラシ配布先

イオンモール（KYOTO・京都桂川・五条）、がんこ京都、北大路ビブレ、京都アバンティー、京都市人にやさしい宣言各商店街、京都生協、JR伊勢丹京都店、ゼスト御池、高島屋（京都店・洛西店）、東華菜館、ポルタ（京都駅前地下街）、ラクセーヌ商店会、洛北阪急スクエア、ワコール